

教育の理念

環境変化に直面する企業や社会において、情報を収集・分析・統合しつつ、自ら課題を発見し、適切かつ迅速に解決できる人材を養成する。そのために、経営に関わる理論的・実践的研究の深い知識、仏教と禅による人間観とグローバルな視野による広い教養を礎に、合理的な分析とチームによる問題解決を実践できる能力を陶冶する。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

経営学部は、本学の教育の理念に基づいて定められた下記の5つの能力を身につけ、所定の期間在学し、本学部が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔理解、関心、意欲、態度、主体性〕

仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連して行うことができる駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備えている。

(DP2) 幅広い教養、多様性の理解と尊重〔知識、理解、関心、意欲、主体性、多様性、協働性〕

人文、社会、自然、ライフデザイン、様々な言語・異文化に関する多角的な知識と深い教養と経営学を中心とする専門分野の知識を体系的に身につけ、国内外の多様な文化・価値観の違いを理解し、他者を尊重することができる。

(DP3) 情報分析力と問題解決力〔技能、思考力、判断力、表現力〕

経営を中心とする情報を収集・分析・統合して適切に評価する力を身につけ、状況に応じてICT（情報通信技術）をモラルに則り効果的に活用し、問題発見や問題解決に繋がるアイデアを出し、意思決定することができる。

(DP4) コミュニケーション能力〔技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

レポートや論文などの文章読解・作成能力およびプレゼンテーション技術を身につけ、相手の状況を理解した上で自らの考えを論理的かつ明確に伝えて、他者と主体的に協働することができる。また、英語を中心とした外国語の4技能（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）について社会人に求められる十分なレベルまで修得している。

(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

体系的に修得した経営に関する知識・技能・技術を、実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に活用し、新たな価値を創造するとともに、地域社会、国際社会、産業界の発展へ主体的に貢献することができる。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と学習評価の観点のマトリクス表

◎：特に重点を置いている ○：重点を置いている			学修評価の観点												
			知識	理解	技能	思考力	判断力	表現力	関心	意欲	態度	主体性	多様性	協働性	
卒業認定・学位授与の方針	DP1	建学の理念を实践する力		○						◎	◎	◎	○		
	DP2	多様性の理解と尊重	○	◎						○	○	○	○	◎	○
	DP3	情報分析力と問題解決力			○	◎	◎	○					○		
	DP4	コミュニケーション能力			○	○			◎				○	○	◎
	DP5	専門分野の知識・技能の活用 力	◎		◎	○	○	○					◎	○	○

※学習評価の観点は「学力の三要素」と「学習指導要領」に基づく。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

経営学部は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げた5つの能力を身につけるために、下記の教育課程を編成し実施する。

1. 教育内容

- 1) 仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につけることを目的とした「仏教と人間」を必修科目として開講する。
- 2) 高校までの学びから大学の学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につけることを目的とした科目「新入生セミナー」を初年次に開講する。2年次以降は、学生と教員、学生同士の双方向の対話を重視しながら、高度なコミュニケーション能力およびチームによる問題解決能力を育成する少人数制の演習を開講する
- 3) 実用スキル教育として「キャリア教育」と「実用英語教育」に関する科目を開講する。
「キャリア教育」では、社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるための教育を行う。「実用英語教育」では、社会に出て役立つレベルの「話すこと」「書くこと」に重点を置いた英語教育を行う。このほか、日本語の「読むこと」「書くこと」について社会人としての基礎的レベルを身につける「日本語リテラシー教育」、ICTスキルおよびICTリテラシーを身につける「ICT教育」に関する科目を開講する。
- 4) 人文、社会、自然、ライフデザイン、外国語、健康・スポーツの分野において、多角的な知識と深い教養を体系的に身につけられるように科目を配置する。
- 5) 専門教育については、経営に関わる諸分野の基礎的な内容を学ぶ必修・選択必修科目を厚く設置し、その上に企業経営を多角的に学べるよう多様な専門選択科目を開講する。また、各学科には専門科目を体系的に学ぶことができるコースを設置する。加え

て、より高度な学習を求める学生のために、時代に即応した実践的かつ応用的な専門科目を複数開講する。

- 6) グローバル化する社会に対応するために、語学科目を必修科目とすると同時に、より高度な学習を求める学生のために外国語と専門分野との融合科目を開講する。
- 7) 理論と実践の橋渡しのために、実業界で活躍している方々をゲストとして招く形式の授業を複数配置する。また、産業界や地域社会などの発展のために、修得した経営に関する知識や技能などを演習を通じて積極的に活用する。

2. 教育方法

- 1) 「仏教と人間」は、共通シラバスに基づいて講義が行われ、その中に「坐禅」の実習を含めることで、禅の精神に触れる機会を設ける。
- 2) 演習および新入生セミナーにおいては、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行う。大人数の講義科目でも、可能な限りアクティブ・ラーニングを取り入れる。
- 3) 演習では、事前に募集説明会や担当教員による選抜を実施し、原則として少人数制の下、担当教員による手厚い指導を行う。
- 4) eラーニングシステムを活用することで、学生が授業時間以外に主体的に学修する時間を増やすとともに、担当教員と学生の密接なコミュニケーションを促すことで、より効果的な学修効果を実現する。
- 5) 教員と学生との間で評価内容・評価方法の認識を共有し、科目の成績評価基準の標準化を行うことで、成績評価の公平性、客観性、厳格性を高める。なお、「実用英語教育」に関する科目では、ルーブリックを用いて成績評価の観点と成績評価基準を明確にする。
- 6) 学生調査・アンケートや学修成果の標準化を測定するアセスメント・テストの結果に基づく客観的な評価指標によって、検証結果を教育内容や教育方法の改善へ積極的に活用し、学生へのフィードバックを行う。

3. 評価

経営学部では、駒澤大学全体の評価方針に基づき、学生の入学時から卒業後までの成長を視野に入れ、教育課程レベル（経営学部・経営学科、経営学部・市場戦略学科）、科目レベル（個々の科目）の2段階のレベルで学修成果の評価・測定を行う。

	入学生	在学生	卒業生
教育課程レベル (経営学部・両 学科共通)	<ul style="list-style-type: none"> 入試結果 アセスメント・テスト 英語能力テスト 入学前教育の成果の点検 (対象者のみ) 	<ul style="list-style-type: none"> GPA・成績分布状況 修得単位数 学生による授業アンケート 学修行動調査(学修時間等) アセスメント・テスト 英語能力テスト 進級率(年次) 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業時調査アンケート 卒業生アンケート調査 コース修了状況調査
科目レベル (個々の科目)		<ul style="list-style-type: none"> GPA・成績分布状況 学生による授業アンケート 	

4. 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

	科目群等	履修単 位	配当学 年	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	各科目群のねらい
駒澤 人 育 成 基 礎 プ ロ グ ラ ム 全 学 共 通 科 目	仏教と人間	4	1	◎					仏教の教えと禅の精神について理解を深め、 宗教に対する正しい認識を身につける。
	新入生セミナー	2	1	○	○		◎		高校までの学びから大学への学びへの転換を 図り、自立的で自主的な学習態度を身につけ る。
	キャリア教育	2	2			◎			社会的・職業的自立・社会・職業への円滑な 移行に必要な力を身につける。
	実用英語教育	1	1~2				◎		課題がある「話すこと」「書くこと」に重点を 置いた英語教育を行う。
	日本語リテラシー教育	2	1				◎		日本語の「読むこと」「書くこと」について、 社会人としての基礎的なレベルを身につけ る。
	ICT教育	2	1			◎			ICTスキルおよびICTリテラシーを身につけ る。
	人文・社会・自然・ライ フデザイン分野	2~4	1~4		◎				多角的な知識と深い教養を体系的に身につけ る。
	外国語科目	1~2	1~2		◎		○		外国語について社会人に求められる十分なレ ベルを身につけ、異言語・異文化に対する多 角的な理解と教養を深める。
健康・スポーツ分野	1~2	1~4		◎		○		スポーツの実技能力や健康に関する理論を身 につける。	
専 門 教 育 科 目	講義科目	2~4	1~4			○		◎	専門分野の知識を体系的に身につける。
	演習科目	4	2~4			◎	◎	◎	少人数クラスで指導教員との密なコミュニケ ーションを取り、研究、討論、発表を行う。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

経営学部では、企業経営や社会、経済に対する幅広い関心と知的好奇心をもち、高等学校の教育課程を幅広く修得し、大学での学修に必要な基礎学力を身につけた入学者を求めている。また、駒澤大学の教育理念では、主体的かつ協調的なコミュニケーション能力、多様性を理解し他者と協働する力、情報分析力と問題解決力を身につける「丁寧な教育」「厚みのある教育」を行い、絶えざる自己形成と社会の発展に寄与する人材の育成を行うとしている。入学希望者に対しては、この教育理念を理解した上で出願することが望まれる。本学部では、こうした理解をもった受験生から入学者を適正かつ公正に選抜するために、多面的・総合的な視点による多様な入学者選抜を行う。

1. 経営学部の求める学生像

- (AP1) 高等学校の教育課程を幅広く修得し、大学での学修に必要な基礎学力を有している。〔知識、理解、技能〕
- (AP2) 本学が仏教の教えと禅の精神を建学の理念とする大学であることを理解している。また、企業経営や社会、経済に対する幅広い関心と知的好奇心を有し、本学部で学んだ知識や技能を社会で実践する意欲と目的意識をもつ。〔意欲、関心、態度〕
- (AP3) 地域社会、国際社会、産業界の出来事について問題意識をもち、様々な情報に基づき考察を行い、その結果を他者にわかりやすく説明することができる。〔思考力、判断力、表現力〕
- (AP4) 国内外の多様な文化・価値観の違いを認識し、他者を尊重し、主体的に協働する意欲をもつ。〔主体性、多様性、協働性〕

2. 求める学生像と入学者選抜方法のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

入学制度		選抜方法	AP1	AP2	AP3	AP4	各入学制度のねらい
一般入試	全学部統一日程入試	教科	◎				高等学校で修得した教科の理解度を重視した選抜を行う。全学部統一日程入試は、全問マークセンス方式で行う。T方式とS方式は、マークセンス方式と記述式を併用して行う。試験は3教科で行う。
	T方式	教科	◎				
	S方式	教科	◎				
大学入試センター試験利用入試	前期	教科	◎				高等学校で修得した教科の理解度を重視した選抜を行う。大学入試センター試験を受験し、指定する科目の得点で選抜する。
自己推薦入試	総合評価型	出願書類	○	○			本学の教育理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学部の求める学生像との適合性を重視して受験生を選抜する。出願資格を満たした受験生には、出願書類評価、小論文による試験と、面接による口頭試問を行う。
		小論文	○	◎	◎	◎	
		面接口試	○	◎	◎	◎	
特別入試	スポーツ推薦入試 ※公募制ではありません	出願書類	○	○			本学の教育理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学部の求める学生像との適合性を重視して受験生を選抜する。指定されたスポーツ競技で高い能力をもち、かつ、競技部の部長の推薦を得られた者を対象に、出願書類評価、小論文による試験と、面接による口頭試問を行う。
		小論文	○	○	○	○	
		面接口試	○	◎	◎	◎	
	社会人特別入試	出願書類	○	○			生涯学習の一環として、社会人に大学の門戸を開き、学内の活性化を図る。出願資格を満たした受験生には、出願書類評価、小論文による試験、英語の試験、面接による口頭試問を行う。
		小論文	○	◎	◎	◎	
		教科	○				
		面接口試	○	◎	◎	◎	
	帰国生特別入試	出願書類	○	○			国際的感覚を身につけた個性ある勉学意欲旺盛な学生を受け入れる。外国の高等学校に2年以上在学した受験生を対象とする。出願資格を満たした受験生には、出願書類評価、日本語（国語）の試験、外国語の試験、面接による口頭試問を行う。
		筆記	○				
		教科	○				
		面接口試	○	◎	◎	◎	
	外国人留学生入試	出願書類	○	○			外国籍を有する者で、大学教育を受けることを目的とした受験生を対象とする。日本学生支援機構が行う「日本留学試験」の受験を出願条件とする。出願資格を満たした受験生には、出願書類評価、日本留学試験の成績、小論文による試験、面接による口頭試問を行う。
日本留学試験（成績）		◎					
筆記		◎					
面接口試		○	◎	◎	◎		

編入学試験	出願書類	○	○			大学・短期大学・高等専門学校を卒業した者や他大学在学中の者等を対象とする。出願資格を満たした受験生には、出願書類評価、小論文（経営学に関する基礎知識）による試験、英語の試験、面接による口頭試験を行う。
	筆記	◎				
	教科	◎				
	面接口試	○	◎	◎	◎	

教育の理念

経営学科は、経営学分野の理論的・実践的知識および企業経営に関する論理的思考習慣と研究姿勢を身につけ、企業その他の組織において活躍できる人材の養成を目的とする。多面的な「企業を読む」力を持ち、主体的かつ協働的に洞察力・実行力・リーダーシップを発揮でき、組織における諸問題を迅速に解決できる人材を育成するための教育研究を行う。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

経営学科は、本学の教育の理念に基づいて定められた下記の 5 つの能力を身につけ、所定の期間在学し、本学科が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔理解、関心、意欲、態度、主体性〕

仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連して行うことができる駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備えている。

(DP2) 幅広い教養、多様性の理解と尊重〔知識、理解、関心、意欲、主体性、多様性、協働性〕

人文、社会、自然、ライフデザイン、様々な言語・異文化に関する多角的な知識と深い教養と経営学を中心とする専門分野の知識を体系的に身につけ、国内外の多様な文化・価値観の違いを理解し、他者を尊重することができる。

(DP3) 情報分析力と問題解決力〔技能、思考力、判断力、表現力〕

経営に関するさまざまな情報を収集・分析・統合して適切に評価する力を身につけ、状況に応じて ICT（情報通信技術）をモラルに則り効果的に活用し、問題発見や問題解決に繋がるアイデアを出し、意思決定することができる。

(DP4) コミュニケーション能力〔技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

レポートや論文などの文章読解・作成能力およびプレゼンテーション技術を身につけ、相手の状況を理解した上で自らの考えを論理的かつ明確に伝えて、他者と主体的に協働することができる。また、英語を中心とした外国語の 4 技能（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）について社会人に求められる十分なレベルまで修得している。

(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

体系的に修得した経営に関する知識・技能・技術を、実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に活用し、新たな価値を創造するとともに、地域社会、国際社会、産業界の発展へ主体的に貢献することができる。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と学習評価の観点のマトリクス表

◎：特に重点を置いている ○：重点を置いている			学修評価の観点												
			知識	理解	技能	思考力	判断力	表現力	関心	意欲	態度	主体性	多様性	協働性	
卒業認定・学位授与の方針	DP1	建学の理念を実践する力		○						◎	◎	◎	○		
	DP2	多様性の理解と尊重	○	◎						○	○	○	○	◎	○
	DP3	情報分析力と問題解決力			○	◎	◎	○					○		
	DP4	コミュニケーション能力			○	○			◎				○	○	◎
	DP5	専門分野の知識・技能の活用 力	◎		◎	○	○	○	○				◎	○	○

※学習評価の観点は「学力の三要素」と「学習指導要領」に基づく。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

経営学科は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げた5つの能力を身につけるために、下記の教育課程を編成し実施する。

1. 教育内容

- 1) 仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につけることを目的とした「仏教と人間」を必修科目として開講する。
- 2) 高校までの学びから大学の学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につけることを目的とした科目「新入生セミナー」を初年次に開講する。2年次以降は、学生と教員、学生同士の双方向の対話を重視しながら、高度なコミュニケーション能力およびチームによる問題解決能力を育成する少人数制の演習を開講する。
- 3) 実用スキル教育として「キャリア教育」と「実用英語教育」に関する科目を開講する。「キャリア教育」では、社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるための教育を行う。「実用英語教育」では、社会に出て役立つレベルの「話すこと」「書くこと」に重点を置いた英語教育を行う。このほか、日本語の「読むこと」「書くこと」について社会人としての基礎的レベルを身につける「日本語リテラシー教育」、ICTスキルおよびICTリテラシーを身につける「ICT教育」に関する科目を開講する。
- 4) 人文、社会、自然、ライフデザイン、外国語、健康・スポーツの分野において、多角的な知識と深い教養を体系的に身につけられるように科目を配置する。
- 5) 専門教育については、経営に関わる諸分野の基礎的な内容を学ぶ必修・選択必修科目を厚く設置し、その上に企業経営を多角的に学べるよう多様な専門選択科目を開講する。具体的には、専門教育科目を1年次科目、2年次科目、3・4年次科目という区分で段階的に配置することによって、効果的な学修を促進する。1年次は、「経営学基

礎」「企業論」「簿記学」「会計学」「経済学概説」を必修科目として設置することによって、2年次以降の学修の基礎となる科目を配置する。2年次は、3・4年次に配置されるより専門的な科目の前提となる知識を提供する科目を選択必修科目として多く配置する。

- 6) 専門科目を系統的にかつ効果的に学ぶために、「企業経営コース」、「企業会計コース」、「経済分析コース」という3つのコースを設置する。加えて、より高度な学習を求める学生のために、時代に即応した実践的かつ応用的な専門科目を複数開講する。
- 7) グローバル化する社会に対応するために、語学科目を必修科目とすると同時に、より高度な学習を求める学生のために外国語と専門分野との融合科目を開講する。
- 8) 理論と実践の橋渡しのために、実業界で活躍している方々をゲストとして招く形式の授業を複数配置する。また、産業界や地域社会などの発展のために、修得した経営に関する知識や技能などを演習を通じて積極的に活用する。

2. 教育方法

- 1) 「仏教と人間」は、共通シラバスに基づいて講義が行われ、その中に「坐禅」の実習を含めることで、禅の精神に触れる機会を設ける。
- 2) 演習および新入生セミナーにおいては、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行う。大人数の講義科目でも、可能な限りアクティブ・ラーニングを取り入れる。
- 3) 演習では、事前に募集説明会や担当教員による選抜を実施し、原則として少人数制の下、担当教員による手厚い指導を行う。
- 4) eラーニングシステムを活用することで、学生が授業時間以外に主体的に学修する時間を増やすとともに、担当教員と学生の密接なコミュニケーションを促すことで、より効果的な学修効果を実現する。
- 5) 教員と学生との間で評価内容・評価方法の認識を共有し、科目の成績評価基準の標準化を行うことで、成績評価の公平性、客観性、厳格性を高める。なお、「実用英語教育」に関する科目では、ルーブリックを用いて成績評価の観点と成績評価基準を明確にする。
- 6) 学生調査・アンケートや学修成果の標準化を測定するアセスメント・テストの結果に基づく客観的な評価指標によって、検証結果を教育内容や教育方法の改善へ積極的に活用し、学生へのフィードバックを行う。

3. 評価

経営学科では、駒澤大学全体の評価方針に基づき、学生の入学時から卒業後までの成長を視野に入れ、教育課程レベル（経営学部経営学科）、科目レベル（個々の科目）の2段階のレベルで学修成果の評価・測定を行う。

	入学生	在学生	卒業生
教育課程レベル (経営学部・両 学科共通)	<ul style="list-style-type: none"> 入試結果 アセスメント・テスト 英語能力テスト 入学前教育の成果の点検 (対象者のみ) 	<ul style="list-style-type: none"> GPA・成績分布状況 修得単位数 学生による授業アンケート 学修行動調査（学修時間等） アセスメント・テスト 英語能力テスト 進級率（年次） 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業時調査アンケート 卒業生アンケート調査 コース修了状況調査
科目レベル (個々の科目)		<ul style="list-style-type: none"> GPA・成績分布状況 学生による授業アンケート 	

4. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

	科目群等	履修 単位	配当 学年	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	各科目群のねらい
駒澤 人 育 成 基 礎 プ ロ グ ラ ム 全 学 共 通 科 目	仏教と人間	4	1	◎					仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につける。
	新入生セミナー	2	1	○	○		◎		高校までの学びから大学への学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につける。
	キャリア教育	2	2			◎			社会的・職業的自立・社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につける。
	実用英語教育	1	1～2				◎		課題がある「話すこと」「書くこと」に重点を置いた英語教育を行う。
	日本語リテラシー教育	2	1				◎		日本語の「読むこと」「書くこと」について、社会人としての基礎的なレベルを身につける。
	ICT教育	2	1			◎			ICTスキルおよびICTリテラシーを身につける。
	人文・社会・自然・ライフデザイン分野	2～4	1～4		◎				多角的な知識と深い教養を体系的に身につける。
	外国語科目	1～2	1～2		◎		○		外国語について社会人に求められる十分なレベルを身につけ、異言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深める。
健康・スポーツ分野	1～2	1～4		◎		○		スポーツの実技能力や健康に関する理論を身につける。	
専 門 教 育 科 目	講義科目	2～4	1～4			○		◎	専門分野の知識を体系的に身につける。
	演習科目	4	2～4			◎	◎	◎	少人数クラスで指導教員との密なコミュニケーションを取り、研究、討論、発表を行う。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

経営学科では、企業経営や社会、経済に対する幅広い関心と知的好奇心をもち、高等学校の教育課程を幅広く修得し、大学での学修に必要な基礎学力を身につけた入学者を求めている。また、駒澤大学の教育理念では、主体的かつ協調的なコミュニケーション能力、多様性を理解し他者と協働する力、情報分析力と問題解決力を身につける「丁寧な教育」「厚みのある教育」を行い、絶えざる自己形成と社会の発展に寄与する人材の育成を行うとしている。入学希望者に対しては、この教育理念を理解した上で出願することが望まれる。本学科では、こうした理解をもった受験生から入学者を適正かつ公正に選抜するために、多面的・総合的な視点による多様な入学者選抜を行う。

1. 経営学科の求める学生像

- (AP1) 高等学校の教育課程を幅広く修得し、大学での学修に必要な基礎学力を有している。〔知識、理解、技能〕
- (AP2) 本学が仏教の教えと禅の精神を建学の理念とする大学であることを理解している。また、企業経営や社会、経済に対する幅広い関心と知的好奇心を有し、本学科で学んだ知識や技能を社会で実践する意欲と目的意識をもつ。〔意欲、関心、態度〕
- (AP3) 地域社会、国際社会、産業界の出来事について問題意識をもち、様々な情報に基づき考察を行い、その結果を他者にわかりやすく説明することができる。〔思考力、判断力、表現力〕
- (AP4) 国内外の多様な文化・価値観の違いを認識し、他者を尊重し、主体的に協働する意欲をもつ。〔主体性、多様性、協働性〕

2. 求める学生像と入学者選抜方法のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

入学制度		選抜方法	AP1	AP2	AP3	AP4	各入学制度のねらい
一般入試	全学部統一日程入試	教科	◎				高等学校で修得した教科の理解度を重視した選抜を行う。全学部統一日程入試は、全問マークセンス方式で行う。T方式は、マークセンス方式と記述式を併用して行う。試験は3教科で行う。
	T方式	教科	◎				
大学入試センター試験利用入試	前期	教科	◎				高等学校で修得した教科の理解度を重視した選抜を行う。大学入試センター試験を受験し、指定する科目の得点で選抜する。
自己推薦入試	総合評価型	出願書類	○	○			本学の教育理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学科の求める学生像との適合性を重視して受験生を選抜する。出願資格を満たした受験生には、出願書類評価、小論文による試験と、面接による口頭試問を行う。
		小論文	○	◎	◎	◎	
		面接口試	○	◎	◎	◎	
特別入試	スポーツ推薦入試 ※公募制ではありません	出願書類	○	○			本学の教育理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学科の求める学生像との適合性を重視して受験生を選抜する。指定されたスポーツ競技で高い能力をもち、かつ、競技部の部長の推薦を得られた者を対象に、出願書類評価、小論文による試験と、面接による口頭試問を行う。
		小論文	○	○	○	○	
		面接口試	○	◎	◎	◎	
	社会人特別入学試験	出願書類	○	○			生涯学習の一環として、社会人に大学の門戸を開き、学内の活性化を図る。出願資格を満たした受験生には、出願書類評価、小論文による試験、英語の試験、面接による口頭試問を行う。
		小論文	○	◎	◎	◎	
		教科	○				
		面接口試	○	◎	◎	◎	
	帰国生特別入学試験	出願書類	○	○			国際的感覚を身につけた個性ある勉学意欲旺盛な学生を受け入れる。外国の高等学校に2年以上在学した受験生を対象とする。出願資格を満たした受験生には、出願書類評価、日本語(国語)の試験、外国語の試験、面接による口頭試問を行う。
		筆記	○				
		教科	○				
		面接口試	○	◎	◎	◎	
	外国人留学生入試	出願書類	○	○			外国籍を有する者で、大学教育を受けることを目的とした受験生を対象とする。日本学生支援機構が行う「日本留学試験」の受験を出願条件とする。出願資格を満たした受験生には、出願書類評価、日本留学試験の成績、小論文による試験、面接による口頭試問を行う。
日本留学試験(成績)		◎					
筆記		◎					
面接口試		○	◎	◎	◎		

編入学試験	出願書類	○	○			大学・短期大学・高等専門学校を卒業した者や他大学在学中の者等を対象とする。出願資格を満たした受験生には、出願書類評価、小論文（経営学に関する基礎知識）による試験、英語の試験、面接による口頭試問を行う。
	筆記	◎				
	教科	◎				
	面接口試	○	◎	◎	◎	

教育の理念

市場戦略学科は、市場戦略に関する理論や応用を教育研究の中心的課題とし、企業において主体的に協働して市場戦略上の問題解決が図れる人材の養成を目的とする。ここでの市場戦略とは、新たな顧客価値をもつ製品・サービスの創出や市場を介したその流通のために計画・実行される戦略を指す。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

市場戦略学科は、本学の教育の理念に基づいて定められた下記の5つの能力を身につけ、所定の期間在学し、本学科が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔理解、関心、意欲、態度、主体性〕

仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連して行うことができる駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備えている。

(DP2) 幅広い教養、多様性の理解と尊重〔知識、理解、関心、意欲、主体性、多様性、協働性〕

人文、社会、自然、ライフデザイン、様々な言語・異文化に関する多角的な知識と深い教養と市場戦略に関係する専門分野の知識を体系的に身につけ、国内外の多様な文化・価値観の違いを理解し、他者を尊重することができる。

(DP3) 情報分析力と問題解決力〔技能、思考力、判断力、表現力〕

市場戦略に関する情報を収集・分析・統合して適切に評価する力を身につけ、データにもとづき数量的な解析を行い、問題発見や問題解決に繋がるアイデアを出し、意思決定することができる。

(DP4) コミュニケーション能力〔技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

レポートや論文などの文章読解・作成能力およびプレゼンテーション技術を身につけ、相手の状況を理解した上で自らの考えを論理的かつ明確に伝えて、他者と主体的に協働することができる。また、英語を中心とした外国語の4技能（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）について社会人に求められる十分なレベルまで修得している。

(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

企業活動における市場戦略のもつ役割及びその重要性を理解し、市場戦略に関わる諸分野について体系的に修得した知識・技能・技術を、実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に活用し、新たな価値を創造するとともに、地域社会、国際社会、産業界の発展へ主体的に貢献することができる。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と学習評価の観点のマトリクス表

◎：特に重点を置いている ○：重点を置いている			学修評価の観点												
			知識	理解	技能	思考力	判断力	表現力	関心	意欲	態度	主体性	多様性	協働性	
卒業認定・学位授与の方針	DP1	建学の理念を実践する力		○						◎	◎	◎	○		
	DP2	多様性の理解と尊重	○	◎						○	○	○	○	◎	○
	DP3	情報分析力と問題解決力			○	◎	◎	○					○		
	DP4	コミュニケーション能力			○	○		◎					○	○	◎
	DP5	専門分野の知識・技能の活用 力	◎		◎	○	○	○					◎	○	○

※学習評価の観点は「学力の三要素」と「学習指導要領」に基づく。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

市場戦略学科は、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げた 5 つの能力を身につけるために、下記の教育課程を編成し実施する。

1. 教育内容

- 1) 仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につけることを目的とした「仏教と人間」を必修科目として開講する。
- 2) 高校までの学びから大学の学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につけることを目的とした科目「新入生セミナー」を初年次に開講する。2 年次以降は、学生と教員、学生同士の双方向の対話を重視しながら、高度なコミュニケーション能力およびチームによる問題解決能力を育成する少人数制の演習を開講する。
- 3) 実用スキル教育として「キャリア教育」と「実用英語教育」に関する科目を開講する。「キャリア教育」では、社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるための教育を行う。「実用英語教育」では、社会に出て役立つレベルの「話すこと」「書くこと」に重点を置いた英語教育を行う。このほか、日本語の「読むこと」「書くこと」について社会人としての基礎的レベルを身につける「日本語リテラシー教育」、ICT スキルおよび ICT リテラシーを身につける「ICT 教育」に関する科目を開講する。
- 4) 人文、社会、自然、ライフデザイン、外国語、健康・スポーツの分野において、多角的な知識と深い教養を体系的に身につけられるように科目を配置する。
- 5) 専門教育については、市場戦略に係る諸分野の基礎的な内容を学ぶ必修・選択必修科目を厚く設置し、その上により高度な市場戦略を多角的に学べるよう多様な専門選択科目を開講する。具体的には、専門教育科目を 1 年次科目、2 年次科目、3・4 年次科目という区分で段階的に配置することによって、効果的な学修を促進する。1 年次

は、「市場戦略概説」の他、経営学、経済学、会計学、情報処理の基礎を学ぶ科目を必修科目として設置することなどによって、2年次以降の学修の基礎となる科目を配置する。2年次は、3・4年次に配置されるより専門的な科目の前提となる知識を提供する科目を配置する。

- 6) 専門科目を系統的にかつ効果的に学ぶために、「市場創造コース」、「市場分析コース」、「現代産業・起業コース」という3つのコースを設置する。加えて、より高度な学習を求める学生のために、時代に即応した実践的かつ応用的な専門科目を複数開講する。
- 7) グローバル化する社会に対応するために、語学科目を必修科目とすると同時に、より高度な学習を求める学生のために外国語と専門分野との融合科目を開講する。
- 8) 理論と実践の橋渡しのために、実業界で活躍している方々をゲストとして招く形式の授業を複数配置する。また、産業界や地域社会などの発展のために、修得した市場戦略に関する知識や技能などを演習を通じて積極的に活用する。

2. 教育方法

- 1) 「仏教と人間」は、共通シラバスに基づいて講義が行われ、その中に「坐禅」の実習を含めることで、禅の精神に触れる機会を設ける。
- 2) 演習および新入生セミナーにおいては、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行う。大人数の講義科目でも、可能な限りアクティブ・ラーニングを取り入れる。
- 3) 演習では、事前に募集説明会や担当教員による選抜を実施し、原則として少人数制の下、担当教員による手厚い指導を行う。
- 4) eラーニングシステムを活用することで、学生が授業時間以外に主体的に学修する時間を増やすとともに、担当教員と学生の密接なコミュニケーションを促すことで、より効果的な学修効果を実現する。
- 5) 教員と学生との間で評価内容・評価方法の認識を共有し、科目の成績評価基準の標準化を行うことで、成績評価の公平性、客観性、厳格性を高める。なお、「実用英語教育」に関する科目では、ルーブリックを用いて成績評価の観点と成績評価基準を明確にする。
- 6) 学生調査・アンケートや学修成果の標準化を測定するアセスメント・テストの結果に基づく客観的な評価指標によって、検証結果を教育内容や教育方法の改善へ積極的に活用し、学生へのフィードバックを行う。

3. 評価

市場戦略学科では、駒澤大学全体の評価方針に基づき、学生の入学時から卒業後までの成長を視野に入れ、教育課程レベル（経営学部市場戦略学科）、科目レベル（個々の科目）の2段階のレベルで学修成果の評価・測定を行う。

	入学生	在学生	卒業生
教育課程レベル (経営学部・両 学科共通)	<ul style="list-style-type: none"> ・入試結果 ・アセスメント・テスト ・英語能力テスト ・入学前教育の成果の点検 (対象者のみ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・GPA・成績分布状況 ・修得単位数 ・学生による授業アンケート ・学修行動調査（学修時間等） ・アセスメント・テスト ・英語能力テスト ・進級率（年次） 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業時調査アンケート ・卒業生アンケート調査 ・コース修了状況調査
科目レベル (個々の科目)		<ul style="list-style-type: none"> ・GPA・成績分布状況 ・学生による授業アンケート 	

4. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

	科目群等	履修 単位	配当 学年	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	各科目群のねらい
駒澤 人育 成基 礎プ ログ ラム 全学 共通 科目	仏教と人間	4	1	◎					仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につける。
	新入生セミナー	2	1	○	○		◎		高校までの学びから大学への学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につける。
	キャリア教育	2	2			◎			社会的・職業的自立・社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につける。
	実用英語教育	1	1~2				◎		課題がある「話すこと」「書くこと」に重点を置いた英語教育を行う。
	日本語リテラシー教育	2	1				◎		日本語の「読むこと」「書くこと」について社会人としての基礎的なレベルを身につける。
	ICT教育	2	1			◎			ICTスキルおよびICTリテラシーを身につける。
	人文・社会・自然・ライフデザイン分野	2~4	1~4		◎				多角的な知識と深い教養を体系的に身につける。
	外国語科目	1~2	1~2		◎		○		外国語について社会人に求められる十分なレベルを身につけ、異言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深める。
	健康・スポーツ分野	1~2	1~4		◎		○		スポーツの実技能力や健康に関する理論を身につける。
専門 教育 科目	講義科目	2~4	1~4			○		◎	専門分野の知識を体系的に身につける。
	演習科目	4	2~4			◎	◎	◎	少人数クラスで指導教員との密なコミュニケーションを取り、研究、討論、発表を行う。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

市場戦略学科では、企業経営や社会、経済に対する幅広い関心と知的好奇心をもち、高等学校の教育課程を幅広く修得し、大学での学修に必要な基礎学力を身につけた入学者を求めている。また、駒澤大学の教育理念では、主体的かつ協調的なコミュニケーション能力、多様性を理解し他者と協働する力、情報分析力と問題解決力を身につける「丁寧な教育」「厚みのある教育」を行い、絶えざる自己形成と社会の発展に寄与する人材の育成を行うとしている。入学希望者に対しては、この教育理念を理解した上で出願することが望まれる。本学科では、こうした理解をもった受験生から入学者を適正かつ公正に選抜するために、多面的・総合的な視点による多様な入学者選抜を行う。

1. 市場戦略学科の求める学生像

- (AP1) 高等学校の教育課程を幅広く修得し、大学での学修に必要な基礎学力を有している。〔知識、理解、技能〕
- (AP2) 本学が仏教の教えと禅の精神を建学の理念とする大学であることを理解している。また、市場戦略や社会、経済に対する幅広い関心と知的好奇心を有し、本学科で学んだ知識や技能を社会で実践する意欲と目的意識をもつ。〔意欲、関心、態度〕
- (AP3) 地域社会、国際社会、産業界の出来事について問題意識をもち、様々な情報に基づき考察を行い、その結果を他者にわかりやすく説明することができる。〔思考力、判断力、表現力〕
- (AP4) 国内外の多様な文化・価値観の違いを認識し、他者を尊重し、主体的に協働する意欲をもつ。〔主体性、多様性、協働性〕

2. 求める学生像と入学者選抜方法のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

入学制度		選抜方法	AP1	AP2	AP3	AP4	各入学制度のねらい
一般入試	全学部統一日程入試	教科	◎				高等学校で修得した教科の理解度を重視した選抜を行う。全学部統一日程入試は、全問マークセンス方式で行う。T方式とS方式は、マークセンス方式と記述式を併用して行う。試験は3教科で行う。
	T方式	教科	◎				
	S方式	教科	◎				
大学入試センター試験利用入試	前期	教科	◎				高等学校で修得した教科の理解度を重視した選抜を行う。大学入試センター試験を受験し、指定する科目の得点で選抜する。
自己推薦入試	総合評価型	出願書類	○	○			本学の教育理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学科の求める学生像との適合性を重視して受験生を選抜する。出願資格を満たした受験生には、出願書類評価、小論文による試験と、面接による口頭試問を行う。
		小論文	○	◎	◎	◎	
		面接口試	○	◎	◎	◎	
特別入試	スポーツ推薦入試 ※公募制ではありません	出願書類	○	○			本学の教育理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学科の求める学生像との適合性を重視して受験生を選抜する。指定されたスポーツ競技で高い能力をもち、かつ、競技部の部長の推薦を得られた者を対象に、出願書類評価、小論文による試験と、面接による口頭試問を行う。
		小論文	○	○	○	○	
		面接口試	○	◎	◎	◎	
	社会人特別入学試験	出願書類	○	○			生涯学習の一環として、社会人に大学の門戸を開き、学内の活性化を図る。出願資格を満たした受験生には、出願書類評価、小論文による試験、英語の試験、面接による口頭試問を行う。
		小論文	○	◎	◎	◎	
		教科	○				
		面接口試	○	◎	◎	◎	
	帰国生特別入学試験	出願書類	○	○			国際的感覚を身につけた個性ある勉学意欲旺盛な学生を受け入れる。外国の高等学校に2年以上在学した受験生を対象とする。出願資格を満たした受験生には、出願書類評価、日本語(国語)の試験、外国語の試験、面接による口頭試問を行う。
		筆記	○				
		教科	○				
面接口試		○	◎	◎	◎		

外国人留学生入試	出願書類	○	○			外国籍を有する者で、大学教育を受けることを目的とした受験生を対象とする。日本学生支援機構が行う「日本留学試験」の受験を出願条件とする。出願資格を満たした受験生には、出願書類評価、日本留学試験の成績、小論文による試験、面接による口頭試問を行う。
	日本留学試験（成績）	◎				
	筆記	◎				
	面接口試	○	◎	◎	◎	
編入学試験	出願書類	○	○			大学・短期大学・高等専門学校を卒業した者や他大学在学中の者等を対象とする。出願資格を満たした受験生には、出願書類評価、小論文（経営学に関する基礎知識）による試験、英語の試験、面接による口頭試問を行う。
	筆記	◎				
	教科	◎				
	面接口試	○	◎	◎	◎	